

週刊 学びのコミュニティ

第 16 号

平成 21 年 6 月 10 日発行

【報告】

5月30日(土)～5月31日(日)にかけて、山口大学吉田キャンパスで**第57回中国・四国地区大学教育研究会**が開催され、出席してきましたのでここでご報告します。

5月30日は基調講演として「教育力のとらえ方と学士課程教育の構築」(濱名篤 関西国際大学長)、「今企業が学生に求める能力・人間力・社会人基礎力とは」(羽根拓也)の2件がありました。学習者が学習成果を可視化するための方策として、濱名氏は学習ポートフォリオを、羽根氏は『ライト』(Learning in Teaching)の重要性を提案しました。羽根氏はハーバード大学での教育実践の経験を生かしアクティブラーニング社を設立した人ですが、この講演の中でも講演内容をすぐにその場で、聴衆同士対話するという場が持たれ、こういった『ライト』を導入することにより学習効果が高くなることを参加者に体験させて納得させるものでした。

その後、テーマ別セッションが開かれ第4部会「学生の自主活動(特色ある大学教育)」に参加しました。山口大学の取り組みとして「山口大学おもしろプロジェクト」、「山口大学理学部サイエンスワールド」の2件の報告があり、授業内外における体験を通じた教育活動が紹介されました。山口大学では超一流の教育をする大学を目指すということを学生に伝えるための努力が感じられました。

5月31日は自然科学分科会に参加しました。学士力向上のための自然科学系授業の改善をテーマ

に3件の報告があり、従来型の講義・実験・演習に縛られない効果的な教育方法が紹介されました。広島大学理学部化学科での専門演習授業に協調的学習を取り入れる「協調演習による理学的知力の育成支援」が興味深い発表でした。まずは教養的協調演習があり、身近な科学の中に問題を発見するという課題が与えられます。教員は教えるのではなく学生に問いかけをするのみであると同時に、個々の学生がどのように協調学習に取り組んだかを評価するというのが特徴です。そして次の専門的協調演習の授業においては、専門の授業における問題をグループごとに解いて、グループ間で競わせます。基礎的協調演習と専門的協調演習を連動させる取り組みにより、受講を途中で放棄する学生がいなくなったり、平均的な理解度が上昇したり、という結果が得られたようです。医歯薬系の応用を主体とした教育でいち早く取り入れられている教育方法ですが、基盤的な授業でも有効に機能するというこの報告は、今後さまざまな教育に応用できる可能性を持っていると考えられます。

湯田温泉が宿泊地であったのでゆったり温泉に、また街中に数箇所ある足湯につかることができました。懇親会には大学で採れた米を原料にした日本酒が振舞われたり、懇親会后バスはホテル祭りへ向かうなど、のんびりとした雰囲気を楽しみながら、でも会場では白熱した大学教育研究会でありました。

(ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 齊藤隆仁)



学会報告会を行いました！

先週この紙面でも予告いたしました。6月9日火曜日10時30分から正午まで、学生支援室にて、学会報告会が行われました。社会人、教職員合わせて14名が参加、まず、先の【報告】にある中国・四国地区大学教育研究会を含む三つの学会について、大橋眞教授、齊藤隆仁准教授から報告がありました。それを受け、後半は熱い熱い討論が繰り広げられました。学生が身に付けるべき教養とは？学生が大学に求めているものは？大学教育とは？社会人の役割とは？……議論は尽

きることはありません。

社会人の方

も、教員も、学生さんがどうしたら“人間力”を獲得できるのか、どうしたらこの取り組みがよりよいものになっていくのか、真剣に考え、意見を戦わせていました。“この続きは夏の市民フォーラムで…”と会は締めくくられました。その際には、ぜひともたくさんの学生さんに参加して頂き、本音を語ってくだされば、と思います。



『聞いたことを一方通行にしないで、語る（発言する）ことによって、頭の中で再構成する。この繰り返して自己表現する力を身に付けていく。大学教育とは、アイデンティティを形成する場だと思う。』そう語る大橋眞教授

いつも カンパ

ありがとうございます！

10円を缶にポン！と入れてから、好きな飲み物を…常連さんたちの間ではすっかりお馴染みになってきました。みなさまがカンパして下さったお金ですが、6月3日現在で、1,320円集まりました！

そのお金で緑茶、玄米茶、おせんべい、パイ、キャンディーを購入し、学生支援室内に置かせて頂きました。今後も、集まったお金はどんどんみなさまに還元していきたいと思っています。ご協力どうぞよろしくお願いします☆

～編集後記～

本日6月10日は『時の記念日』。東京天文台と生活改善同盟会が1920(大正9)年に、「時間をきちんと守り、欧米並みに生活の改善・合理化を図ろう」と呼びかけ、時間の大切さを尊重する意識を広めるために制定されました。待っている時間はうんと長く感じ、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまう。「時間」とはとても不思議なものです。

年を重ねるにつれ、時間の流れを速く感じるようになり、ああ、もうこんな時間！また1年過ぎてしまった！と焦るばかり。どんな過ごし方をしても、同じように時は刻まれていくので、一日一日大切にしなければ…この記念日に改めてそう思いました。(境)

